

大都市の「知的対流拠点」の事例

大都市の「知的対流拠点」の事例一覧

以下の一覧表に掲げた大都市の「知的対流拠点」について、現時点までに把握した情報を整理。

	施設名称	設置・運営者	所在地
1.	Clipニホンバシ (クリップにほんばし)	三井不動産(株)	東京都中央区(日本橋エリア)
<u>2.</u>	<u>EGG JAPAN(エッグ・ジャパン)</u>	<u>三菱地所(株)</u>	<u>東京都千代田区(大丸有再開発エリア内)</u>
3.	TIP*S(ティップス)	(独)中小企業基盤整備機構	東京都千代田区(大丸有再開発エリア内)
4.	Creative Lounge MOV (クリエイティブ・ラウンジ・モブ)	コクヨ(株)	東京都渋谷区(渋谷ヒカリエ内)
<u>5.</u>	<u>KDDI∞Labo(むげん・ラボ)</u>	<u>KDDI(株)</u>	<u>東京都渋谷区(渋谷ヒカリエ内)</u>
6.	ファブラボ渋谷	(一社)デジタルファブリケーション協会	東京都渋谷区(宇田川エリア)
7.	カタリストBA(かたりすとば)	東京急行電鉄(株)、コクヨ(株)、春蔭プロジェクト(株)	東京都世田谷区(二子玉川再開発エリア内)
8.	名古屋大学ナショナルイノベーションコンプレックス	国立大学法人名古屋大学	名古屋市千種区(名古屋大学東山キャンパス内)
9.	医療デザイン研究センター	公立大学法人名古屋市立大学	名古屋市瑞穂区(名古屋市立大学病院内)
10.	大阪商工会議所	大阪商工会議所	大阪府中央区(大阪商工会議所ビル内)
11.	メビック扇町	設置:大阪市 運営:(公財)大阪市都市型産業振興センター	大阪府北区(カンテレ扇町スクエア内)
<u>12.</u>	<u>GVH#5 (ジー・ブイ・エイチ・ファイブ)</u>	<u>阪急電鉄(株)</u>	<u>大阪府北区(梅田エリア)</u>
13.	ナレッジキャピタル	(一社)ナレッジキャピタル、(株)KMO	大阪府北区(うめきた再開発エリア内)
14.	スタートアップカフェ	設置:福岡市 運営:(株)九州TSUTAYA	福岡府中央区(天神エリア)

※ 上記一覧表は、立地に着目して東から西へ順に列挙。

1. Clipニホンバシ(クリップにほんばし)

運営: 三井不動産(株) 所在地: 東京都中央区(日本橋エリア)

■ 内容

- 三井不動産(株)のベンチャー共創事業「31VENTURES」のオフィスの1つで、本事業の会員を対象としたコワーキングスペース。
- オープンスペース(ワークスペース)、有料会議室、セミナースペースを備える。
- 会員は、ベンチャー企業の経営者や大企業の会社員、デザイナーやエンジニア、フリーランス等。
- 施設運営のポイントは以下の3つ。
 - ①コミュニティ: Clipニホンバシを含む6つの施設を用意し、事業規模や成長スピードに合わせた多彩な空間を提供するとともに施設間交流を促進。
 - ②サポート: 専属のコンサルスタッフを配すなど、会員の事業成長にコミットする人的なサポートを用意。
 - ③オープンイノベーション: 特にベンチャー企業と大企業の協業創出を目指し、各種のイベントやプログラムを開催。

■ 特徴

- 大企業内の新規事業担当者とクリエイター、起業家を結んで新しいビジネスを創りだす。挑戦意欲に富み、常に異分野・異業種とのコラボレーションの機会を探している人々が集まる。
- ビジネス創造に必要な要素である出会い、学び、コラボレーション実践などが凝縮したイベント(月10~20件ほど)を開催し、豊かなコミュニティを構築。例えば、起業家やベンチャー向けのセミナーだけでなく、会社員がゼロから事業創出するスキルを身に付けるための講座「ゼロイチセミナー」等を開催。

■ 経緯

- 20年以上にわたり多様なベンチャーオフィスを運営してきた三井不動産(株)が2014年4月、東京都・日本橋のCMビルにClipニホンバシを開設。
- 2017年4月、利用者拡大、利便性向上、取組強化を目指し、面積を拡張して日本橋のClipニホンバシビルへ移転。

※ 施設運営者へのヒアリング及びHPを基に作成。



情報交換イベントの様子



会員専用ミーティングスペース

2. EGG JAPAN (エッグ・ジャパン)

運営: 三菱地所(株) 所在地: 東京都千代田区(大丸有再開発エリア内)

■ 内容

- ベンチャー企業向けスモールオフィスとビジネスクラブを併設させた施設。
- 2~20名向けの様々なタイプのオフィス34室を家具・通信回線等を備付けで提供。
- 同オフィスの入居企業社員、そのサポートをしたい弁護士・会計士等の専門家、大企業の新規事業担当者等が会員となり、ビジネスクラブ開催イベントで交流。

■ 特徴

- 入居企業は会議室やラウンジ等の共用スペースが利用でき、電気・空調・回線利用料等込みの価格設定でオフィスが提供される。
- さらには、三菱地所の発行雑誌やwebサイトでの入居企業紹介、入居企業登壇イベントへの顧客候補の集客といったサービスも提供される。
- 現在では海外企業の入居が6割程度と多くなっており、そのうち8割程度がアメリカのIT企業という利用状況。
- ビジネスクラブでは、「ネットワーキングパーティ」と呼ばれる年2回の大規模交流会、著名人や起業家によるトークショー、ビジネスのノウハウについて学習するセミナーなど、年間200回以上のイベントが開催されている。
- また、ビジネスクラブ内で会員同士の小グループが形成されており、交流会や勉強会、情報交換会が開催されている。
- 三菱地所が手がける「大手町・丸の内・有楽町再開発」のエリア全体の価値向上を意図するとともに、本施設で育った企業が将来通常のオフィスの利用者として域内に拡張移転していくことを期待して設置・運営。

■ 経緯

- 三菱地所は大丸有再開発が開始された1990年代終わり頃から、ベンチャー企業誘致に積極的に取り組んでいる。
- 2002年、丸ビルにビジネスクラブ「東京21c(せいき)クラブ」を開設。
- 2007年、「東京21cクラブ」にオフィスを併設して新丸ビルに「EGG JAPAN」を開設。



オフィススペース



ネットワーキング
パーティの様子

3. TIP*S(ティップス)

運営:(独)中小企業基盤整備機構 所在地:東京都千代田区(大丸有再開発エリア内)

■ 内容

- 中小企業や起業に関心がある個人を対象に、学びあいを目的とした対話型ワークショップを開催。
- 中小機構が5名の支援スタッフ(常駐1名、交代で4名)を配置して運営。
- 参加者対話型のワークショップやビジネス講座、イベントを開催。15~30名程度の規模のものが多く、平日夕方や夜間に開催されることが多い。2016年度(2016年5月~2017年3月)のイベント開催回数は233回。

■ 特徴

- イベントの開催にあたっては以下の3点を重視。
 - ①ワークショップや講座は参加者同士の対話型方式
 - ②講師と参加者もフラットな関係で議論し、ともに学びあう場を主体的に創り出す役割を担う
 - ③テーマは「地域」「創業」「アイデア創出」など、実践の第一歩につながる様々なものを開催
- 東京駅が近い立地から、地方自治体や地方の企業が東京でのイベントを開催する際に利用するケースも多い。

■ 経緯

- 従来の中小機構の支援対象は、中小企業等の法人やそれらの企業による事業が対象であったが、法人化や事業化に至るには、その前提として個人のアイデアや想いが起点にあることに着目し、個人のアイデアや想いを支援し、最初の一步を踏み出すポイントを支援する取組やしきみづくりを目指した。
- 2014年10月、東京都・大手町の日本ビルにオープン。
- 2016年5月、日本ビルの解体に伴い、東京都・丸の内丸の内二丁目ビルに移転。



ワークスペース



ワークショップの様子

4. Creative Lounge MOV(クリエイティブ・ラウンジ・モブ)

運営:コクヨ(株) 所在地:東京都渋谷区(渋谷ヒカリエ内)

■ 内容

- 会員制のコワーキングスペース。
- 会員数は時間単位会員(ワнтаイムメンバー)を含めると数千人で、業種はIT系等多様多様。
- 主な設備は、オープンラウンジ、ショーケース、会議室、オフィススペース。
- 主なイベント
 - 2ヶ月に一度「MOVパーティ」(会員限定の交流会)
 - 年に一度「MOV市(いち)」(一般客も招待して会員の仕事を紹介する見本市で1,000人程度の集客)

■ 特徴

- オフィススペースの貸し出しだけでなく、オープンラウンジを広めに設置し、コミュニケーションを促進している。
- 施設の入口に情報発信を目的としたショーケースを設置。このスペースを利用して個人や企業、地方自治体がイベントや展示会を実施。
- 施設のWebサイト内に、会員の取組を発信するページ「MOV Channel」を開設。

■ 経緯

- コクヨ(株)がオフィス機器メーカーとしてだけでなく、働き方の提案を通じて、新しい価値や市場を創出していくことを目的として、2012年に東京・渋谷の駅前再開発ビルである渋谷ヒカリエに開設。
- Creative Lounge MOVが入居する渋谷ヒカリエの8階は、都市再生特別地区における公共・公益施設として位置づけられている。



「MOV市」の様子



オフィススペース

5. KDDI ∞ Labo (ケイディーディーアイ・むげん・ラボ)

運営: KDDI(株) 所在地: 東京都渋谷区(渋谷ヒカリエ内)

■ 内容

- ベンチャー企業と既存企業が連携し事業共創を目指すプラットフォームを提供する施設(かつては後述のプログラム参加ベンチャー企業の日常の仕事場としての利用があったが、現在はそうした利用はなく、打合せやイベント開催を中心とした利用形態。)
- かつては半年、現在は一年の期間でプログラム参加者が募集され、KDDI社員のほか、本取組趣旨に賛同する弁護士や投資家などのアドバイザーや各種企業のサポートを受けながらインパクトのある新たな事業の共創に取り組む。
- 2017年度期参加企業決定後時点で累計58社のベンチャー企業がプログラムに参加。

■ 特徴

- プログラムに参加するベンチャー企業にはKDDI社員が専属の担当として積極的に支援するとともに、本取組趣旨に賛同する多種多様な企業計36社とパートナー連合が結成されており、これら企業とともに事業共創を目指した取組が進められる。
- 本施設内での報告会も経ながらプログラムが進められ、プログラム期末には600名以上が参加して投票により受賞者を決める最終報告会(デモデイ)が開催される。
- デモデイには別途地方で開催してきたビジネスコンテスト(これまで大阪市、福岡市、広島県、石巻市と連携して開催)においてグランプリをとった企業も参加。
- 当時求められていた携帯電話のコンテンツ作成分野の強化を、そのノウハウを有するベンチャー企業と組んで効率的に進める意図で開始された取組であり、プログラム参加企業をKDDIが買収してグループ会社とすることもある。
- 併行して「KDDIオープンイノベーションファンド」を運営し、ベンチャー企業を広く支援。

■ 経緯

- KDDIはベンチャー企業との関係性を強化していくために、2011年に本施設を開設。2012年には「KDDIオープンイノベーションファンド」を設立した。
- 当初は六本木のKDDI新事業開発部門のオフィスの一角に設置。2012年7月、同部門の渋谷ヒカリエへの移転に伴い本施設も移転した。



施設の内観



イベントの様子

6. ファブラボ渋谷

運営：(一社)デジタルファブリケーション協会 所在地：東京都渋谷区(宇田川町エリア)

■ 内容

- デジタルファブリケーション(3Dプリンター、レーザーカッターなどのコンピュータと接続された工作機械)を備えた工房。
- 「co-lab渋谷アトリエ」(春蔘プロジェクト(株)が都内数カ所で展開する会員制コワーキングスペース「co-lab」の一つで2017年6月まで渋谷で運営されていた施設)内に併設。
- 利用希望者が多い場合は、ビジョンを持った人が優先して利用できるように選考している。月6組程度の利用がある。
- 利用者は都心在住者などの地域住民、職業はIT企業、製造業に務める人、大学教師などが多い。

■ 特徴

- 「自分たちで使うものを、使う人自身でつくる文化」を醸成することを目指す。
- 工房内の工作機械は基本的に無料で使用できる。
- 運営団体が有する国内18か所及び海外のネットワークを通じて、国内各地のファブラボの会員と交流したり、海外から日本に来たついでに立ち寄りといった人もいる。

■ 経緯

- シェアオフィス事業を手掛ける企業より協力依頼があり、2012年11月開設。
- 再開発に伴う「co-lab渋谷アトリエ」の閉鎖により、2017年6月にファブラボ渋谷も閉鎖。その後千代田区神田錦町に移転し、再開に向けて準備中。
- 移転先の神田錦町では、地域の街開発事業者とコミュニケーションをとりながら、地域活性の一助となる活動を目指している。



ワークショップの様子



工房内の設備

※ 施設運営者へのヒアリング及びHPを基に作成。

7. カタリストBA(かたりすとば)

運営: 東京急行電鉄(株)、コクヨ(株)、春蔘プロジェクト(株)

所在地: 東京都世田谷区(二子玉川再開発エリア内)

■ 内容

- 施設内は、カタリストBA共有エリア(イベント会場としても利用できるサロンやスタジオ、キッチン)と、「co-lab二子玉川」(春蔘プロジェクト(株)が都内数ヶ所で運営するコワーキングスペース「co-lab」の一つ)の占有エリア(会議室(有料)、会員占有デスク・ブース)に分かれる。
- 主な利用者は、「co-lab二子玉川」会員のクリエイターや起業家に加え、「クリエイティブ・シティ・コンソーシアム※」会員。

※ 企業や有識者、大学や行政の関係者等で構成。二子玉川をモデル地区として、次世代の働き方や暮らし方について、対話しながら新たなビジネスやサービスの社会実験を行う民間発の団体。企業会員57社、学会会員14名、研究会員2名、個人会員8名、後援会員25団体(2017年7月時点)

■ 特徴

- 都心とは異なる環境にある二子玉川という郊外立地にチャレンジ。
- 近隣に居住している子育て世代の利用者が多く「職住近接」が実現。
- 個人のクリエイターや起業家を中心に、大企業、世田谷区、地域住民など多様な主体が、まちづくり活動のために利用する場になっている。(都内唯一のセグウェイの公道走行ツアーの拠点、など)

■ 経緯

- 2011年、二子玉川再開発による複合施設「二子玉川ライズ」のオープンに伴いカタリストBAも開業。



イベントの様子



施設の
全体構成イメージ

※ 施設運営者へのヒアリング及びHPを基に作成。

8. 名古屋大学ナショナルイノベーションコンプレックス

運営: 国立大学法人名古屋大学 所在地: 名古屋市千種区(名古屋大学東山キャンパス内)

■ 内容

- 愛知県と豊田市、地元の大手中自動車メーカーであるトヨタ自動車(株)との共同申請により文部科学省の事業採択を受けて名古屋大学内に整備された産学官連携での研究開発施設。
- トヨタ自動車(株)のほか多くの企業が研究室を設けて研究員を配置しており、民間の活力やノウハウを大学と連携して活用可能な体制が整備されている。

■ 特徴

- 平成25年度に採択された文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」の活動拠点(COI拠点)に位置付けられている。
- 同プログラムでは平成25年度～平成33年度の9年間で約160億円の事業規模を予定。高齢者が自らの意志でいつでもどこでも移動できる「高齢者が元気になるモビリティ社会」の構築をビジョンに掲げ、拠点長にはトヨタ自動車(株)の社員が就任するとともに、同社等と連携した研究開発を進めている。

■ 経緯

- 名古屋大学が文部科学省の「平成24年度地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業」に採択され、名古屋大学キャンパス内に本施設を整備(2015年6月完成)。
- さらに、文部科学省の「平成25年度革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」に採択され、本施設を拠点として研究開発を推進。



外観



会議室

9. 医療デザイン研究センター

運営：公立大学法人名古屋市立大学 所在地：名古屋市瑞穂区（名古屋市立大学病院内）

■ 内容

- 産官学連携により「工業デザイン」を導入した医療機器や臓器モデル等を開発する研究センター。
- 中部経済産業局が東海地域の大学におけるイノベーション創出拠点に位置づけている。
- 多くの企業が連携を目的として、センターが設置した「医療デザイン研究開発機構」に加盟しており、名古屋市立大学からの予算の他に、この「医療デザイン研究開発機構」の会費等を活動の財源としている。

■ 特徴

- 医師とデザイナー、エンジニアの知を統合・昇華させることで、医療環境における課題を解決することを目指す。
- 本施設のセンター長は三菱自動車工業(株)のデザイナー出身で、名古屋市立大学附属環境デザイン研究所初代所長も歴任しており、その経験やノウハウが医療分野へ投入されている。
- 医療現場である病院内に研究拠点を整備することで、医療スタッフとのディスカッションや医療現場での検証・評価が行いやすくなっており、医療機器製品の効率的な開発モデルを構築している。
- 名古屋市立大学の全面的なバックアップを受け、トップダウンによるスピーディーな意思決定が可能な体制となっている。

■ 経緯

- 経済産業省平成25年度「地域イノベーション協創プログラム補助金」を活用し、2014年8月に名古屋市立大学病院の建物内に開設。



本施設でデザインされた
喉頭鏡



本施設でデザインされた
経肺薬展開デバイス 10

※ 施設運営者へのヒアリング及びHPを基に作成。

10. 大阪商工会議所

運営：大阪商工会議所 所在地：大阪府中央区（大阪商工会議所ビル内）

■ 内容

- 商工業の発展を図るとともに、広く地域全般の振興に努め、社会一般の福祉の増進に寄与するという公共性をもって、業種や企業規模にかかわらず在阪企業をはじめとした企業・団体等が利用する小～大規模の会議室を用意（全て有料）。
- 大阪市内に5支部を設置するなど、その地区内の企業・団体等と地域に密着した活動を展開。また、大阪を舞台に活躍した企業家約100人を展示する交流拠点「大阪企業家ミュージアム」も運営。

■ 特徴

- 国や自治体への政策提言・要望、中小企業の支援、大阪・関西の産業振興の促進、地域経済の活性化の推進を行う地域総合経済団体。
- 特に、大阪における成長分野と位置づけたライフサイエンスやスポーツ産業の振興、イノベーションエコシステムの構築（ドローン、IoT）等にかかる事業を実施し、中堅・中小企業の参入支援に注力。
- 大阪商工会議所が中心となり、全国400以上の商工会議所とともに、商取引支援サイト「ザ・ビジネスモール」を運営。登録企業の情報の検索や登録企業への商談の相談等ができ、2017年8月時点での登録企業は約25万8千社、商材件数は累計約30,000件、発注件数は累計約7,260件。
- 北陸地方（金沢、富山、福井）、関西地方（京都、神戸、大阪、津、大津）の商工会議所と「北陸関西連携会議」を組成し、北陸新幹線の大阪延伸の早期実現に向けた気運醸成とともに、「企業間のビジネスマッチングなど販路開拓支援」「企業の新しい産業分野への参入支援」等の分野で共同事業を実施。

■ 経緯

- 1878年に大阪商工会議所の前身となる大阪商法会議所が設立。
- 1968年に現在の大阪商工会議所ビルが落成。
- 2017年度から中期計画「たんと繁盛 大阪アクション」をスタート。現在3つの戦略フィールド、8つの戦略プロジェクト、合計60のアクションプランを展開中。

※ 施設運営者へのヒアリング及びHPを基に作成。



開催イベントの様子



大阪商工会議所の会議室

11. メビック扇町

設置: 大阪市経済戦略局 運営: (公財)大阪市都市型産業振興センター
 所在地: 大阪府大阪市北区(カンテレ扇町スクエア内)

■ 内容

- 支援対象をクリエイター(映像制作、デザイン、WEB制作、建築・設計などが多い)に特化した施設で、以下のサービスを提供。
- 交流スペース、ロビースペースの貸出(有料)。
- クリエイティブクラスター(約1,300社が登録するクリエイターのデータベース。Webサイト上で地域や業種ごとに検索が可能。)の運営。
- 交流・マッチングイベントの開催(年間120~150件程。企業とクリエイターとの協業成立2016年度末時点累計2,645件。)

■ 特徴

- 支援対象をクリエイターに特化したコミュニティづくりの支援を実施。
- 施設の常駐スタッフがコーディネーターとして間に入り、クリエイター同士や他業種企業とをマッチング。単にニーズとシーズを繋ぐだけでなく、考え方や価値観を共有した上で協業できるような出会いのきっかけを作ること意識。

■ 経緯

- 2003年5月、使われていなかった大阪市水道局の庁舎で運営開始。
- 2011年3月、旧庁舎の解体に伴い、カンテレ扇町スクエアに移転。



交流スペース



プレゼンテーションイベントの様子

※ 施設運営者へのヒアリング及びHPを基に作成。

12. GVH # 5 (ジー・ブイ・エイチ・ファイブ)

運営: 阪急電鉄(株) 所在地: 大阪府大阪市北区(梅田エリア)

■ 内容

- 新規創業(スタートアップ)のうちシードステージをターゲットとした会員制のワーキングスペース。利便性の高い立地でのオフィス提供に加えて、セミナー、コンテスト等のイベントや専門家アドバイス、マッチング支援等の各種サポートを提供。
- 現時点での会員数は64名、26社(うちベンチャー支援を行っている入居者は6社、ベンチャー企業は20社ほど)。

■ 特徴

- 阪急電鉄(株)所有の賃貸可能床の約1/2が集中する梅田エリアの活性化を意図して運営。
- 先行して開設されていた「グローバルベンチャーハビタット(GVH)大阪」(当初梅田エリアの阪急グループ所有ビル内で開設、後にうめきた再開発エリア内に移転。)を運営する(株)サンブリッジグローバルベンチャーズ(以下「連携事業者」と連携しながら、関西の鉄道事業者にとって初の取組として本施設を開設・運営。
- 地下街等を経由して雨の日も傘を差さずとも殆ど濡れずに梅田エリアの各鉄道駅にアクセスでき、極めて利便性が高い立地。
- 外部パートナー(梅田で活動する会計事務所、監査法人、弁護士事務所、地銀、ベンチャーキャピタル等)からの紹介を会員の条件として信用性を判断。
- 阪急電鉄(株)は、大阪で活動するシードステージのベンチャー支援に特化したファンドも組成(運営は先述の連携事業者に業務委託)しており、現在9社に投資。別途(株)池田泉州銀行、南海電気鉄道(株)と共同組成したファンドではアーリー以降のステージを支援。

■ 経緯

- 2011年1月、先述の連携事業者が阪急グループ所有ビル内に先行スタートアップ施設を開設。(同施設は2013年4月にうめきた再開発エリア内に移転。)
- 2014年11月に阪急電鉄(株)として本施設を開業。

※施設運営者へのヒアリングやHPを参照して作成



コワーキングスペース



個室オフィス

13. ナレッジキャピタル

運営：(一社)ナレッジキャピタル、(株)KMO 所在地：大阪府大阪市北区(うめきた再開発エリア内)

■ 内容

- 「うめきた再開発エリア」グランフロント大阪にある知的創造拠点。
- オフィス、会員制サロン、ショールーム、シアターなどの様々な施設を整備。
 - ナレッジオフィス(産学連携プロジェクトに参画する企業、研究機関、大学が入居するオフィス)
 - コラボオフィス(ベンチャー、クリエイター、海外機関など、あらゆる分野が短期間から入居できる小規模オフィス)
 - ナレッジサロン(ビジネスパーソン、研究者、クリエイターや芸術家など、分野を超えた交流により、新たな価値創造をめざす会員制サロン)
 - ザ・ラボ(子どもから大人まで訪れた誰もが、先端技術に触れて、体験して、語り合う交流施設)
 - フューチャーライフショールーム(企業ショールームを中心に22施設が集まる体験型ショールーム)
 - ナレッジシアター(舞台公演からビジネスユースにまで対応した多目的シアター)

■ 特徴

- 企業人、研究者、クリエイター、消費者など様々な人たちが行き交い、それぞれの知を結び合わせて新しい価値を生み出す“知的創造・交流の場”。
- 「ザ・ラボ」や「ナレッジサロン」では、常駐スタッフの「コミュニケーター」が訪問者に声をかけ、交流を促すとともに、訪問した一般生活者の反応を企業や研究者などの参画者にフィードバックする役割も担う。
- 世界各国の政府機関、民間機関との連携を構築している(国内よりも海外機関とのネットワークを重視)。
- グランフロント大阪の開発事業者を構成員とした一般社団法人と株式会社KMOにて運営。

■ 経緯

- 2004年に大阪市により「大阪駅北地区まちづくり基本計画」が制定され、基本方針の一つとして「知的創造活動の拠点(ナレッジキャピタル)づくり」が位置づけられた。この流れをうけて、2013年に大阪市北区「うめきた再開発エリア」に建設されたグランフロント大阪の中核施設として開設。



「コラボオフィス」



「ナレッジサロン」でのイベントの様子

※ 施設運営者へのヒアリング及びHPを基に作成。

14. スタートアップカフェ

設置:福岡市 運営:(株)九州TSUTAYA 所在地:福岡県福岡市中央区(天神エリア)

■ 内容

- 以下の3つの機能や無料で利用可能なコワーキングスペースを提供。
 - ①情報提供・相談・交流機能:コンシェルジュによる創業に関する様々な相談の対応やセミナー・イベントを開催。
 - ②ワンストップ開業窓口機能:創業手続に関する相談に、コンシェルジュが対応するとともに、創業に必要な専門家(弁護士、行政書士、税理士等)をスタートアップカフェに招いて、創業手続き相談会を開催。
 - ③人材確保支援機能:スタートアップ企業と働きたい人とのマッチングを実施。

※実績:相談対応件数 約4,900件、イベント開催件数 1,000回

■ 特徴

- 福岡市が民間に運営委託し、九州TSUTAYAが受託。
- 創業手続き相談会の専門家の人件費は所属する組織(弁護士会等)が費用負担。
- 2017年5月から「グローバルスタートアップセンター」を開設し、福岡市から海外への事業展開や、海外から福岡市への進出を考えている方の創業支援を開始。

■ 経緯

- 福岡市は2010年から様々な創業支援に取り組んできたが、行政の相談窓口があまり活用されていなかったことから、創業検討期に気軽に相談できる創業支援の施設の開設を決めた。
- 2014年10月、福岡市中央区天神エリアのTSUTAYA店舗内に開設。
- 2017年4月、福岡市中央区天神エリアの旧小学校舎を活用して新たに整備されたスタートアップ支援の複合施設「Fukuoka Growth Next」内に移転。

※ 施設運営者へのヒアリング及びHPを基に作成。



イベントの様子

<用語の説明>

コワーキングスペース

共同利用の小規模ワークスペース。仕切りのないオープン形式や、個室ブースや会議室、工房などの様々な付属スペースを含めて総称される場合もある。

ワークショップ

参加者がグループになって考えをまとめて発表しあう、グループ間で討議するなどによって参加する形式の体験型講座。

新規創業(スタートアップ)の各ステージ

新規創業(スタートアップ)には段階に応じて以下のようにステージを分類することが一般的。

- ①「シード」: 商業的事業がまだ完全に立ち上がっておらず、研究および製品開発を継続している企業
- ②「アーリー」: 製品開発および初期のマーケティング、製造および販売活動に向けた企業
- ③「エクспанション」: 生産および出荷を始めており、その在庫または販売量が増加しつつある企業
- ④「レーター」: 持続的なキャッシュフローがあり、IPO直前の企業等

注)ベンチャー白書(一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター)で定義されているベンチャー企業の成長ステージ。本定義は、オープンイノベーション白書(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO))でも引用されている。